

普及活動成果集

多様な担い手が
参加する地域づくり



市町村による新規参入希望者の個別相談会



個別巡回で農業者と生育・管理を確認

技術の定着支援により
経営安定を目指す

地域農業構造の
再編を支援



家族経営協定書の作成

三つの基本理念

「地域の目となり耳となる普及」

「農業者の側(そば)に立つ普及」

「地域の知恵袋となる普及」

平成28年度普及活動成果集

北海道農政部生産振興局技術普及課

	頁
1 多様な担い手が参加する地域づくり活動	
①「落花生で地域を盛り上げる」 渡島農業改良普及センター	1
②「オール宗谷で取り組む『宗谷新規就農者支援ネットワーク』」 宗谷農業改良普及センター	3
③「生産現場と消費者をつなぐ『食のつどい』10年の歩み」 釧路農業改良普及センター	5
2 技術の定着支援により経営安定を図る活動	
④「特産品づくりから、地域の戦略作物へ」 空知農業改良普及センター北空知支所	7
⑤「地域振興作物の安定生産による持続的農業の確立」 日高農業改良普及センター	9
⑥「倒伏に強い飼料用とうもろこし栽培技術の普及推進」 釧路農業改良普及センター	11
3 地域農業構造の再編を支援する活動	
⑦「北石狩型輪作体系の新たな展開」 石狩農業改良普及センター石狩北部支所	13
⑧「耕畜連携とイアコーン生産を核にした新たな地域のあり方について」 胆振農業改良普及センター東胆振支所	15
⑨「地域連携による持続可能な農業の確立」 檜山農業改良普及センター檜山北部支所	17
⑩「『ゆとり』を実感できる農家生活の実現へ」 網走農業改良普及センター網走支所	19

落花生で地域を盛り上げる

～ 4HCが取組んだ「なま落花生プロジェクト」の軌跡 ～

活動年次：平成24～28年

渡島農業改良普及センター

1 課題設定の背景

対象：北斗市4Hクラブ（21人）

地域の活性化6次化を目指し、
加工品作りに挑戦してきたが…

加工事業（6次産業化）
に取り組むのは無理？



- ①業者に委託してみたら・・・(>o<)
加工賃が高く採算合わない。
- ②4HCで加工しては・・・(>o<)
設備投資や製造責任などが大変

地域に根ざした特産品つくろう！
「作物の選定のポイント整理」



- ◆ 加工のいらぬ青果物で
- ◆ 道南の温暖な気象を生かせるもの
- ◆ 知名度があるもので

機運の高まり、意欲の醸成を促した

※ 4HCは4Hクラブの略

2 活動の経過

模索する4HCと共に考え、実践計画策定に向けて支援した。

落花生とは？

原産地 アンデス山脈
 主産地 中国（国外）、干葉県（国内）
 伝 播 日本では明治初期から栽培
 利 用 青果物より
 加工品が主流



2016年は国際マメ年



落花生は加工品が主流だが、
北海道内ではほとんど栽培され
ていない。なまの落花生を
販売をすることで逆に付加価値
が付くのではないかと考えた。

計画への助言・提案

2本柱の活動目標～栽培と販売の実践～

検証しなくてはいけないことを洗い出し、支援していった。

取り組み① 栽培の実践

取り組み② 販売の実践

実証ほ場設置（栽培法検証・品種比較）



5月下旬にほ場準備



マルチで地温、雑草対策

販売シーン別にあわせた販売方法を探る

販売先と販売方法

イベント販売	J A販売所	飲食店

3 活動の成果 *****

■総合評価 ○優れる、○やや優、□並、△やや劣、×劣る

品種名	郷の香	たちまさり	ナカテユタカ	おおまさり	千葉半立
収量性	○	△	□	◎	×
規格内率	◎	×	○	○	△
食味	□	○	◎	○	○
総合	◎	△	○	◎	×

総合評価は郷の香、おおまさりが優れる

収量性、食味試験などを通して地域に合う品種を選定した。



■販売先と販売方法

- ①イベント販売 ②JA直売所 ③飲食店



■経済性(10aあたり)

費用(円) ※粒数は6600粒で計算

品種	種苗費	肥料費	農薬費	資材費	合計
郷の香	50,000	5,000	15,000	10,000	80,000
おおまさり	100,000	5,000	15,000	10,000	130,000

収益(kg,円)

品種	収量	kg単価	租収益
郷の香	800	1,500	1,200,000
おおまさり	1,000	2,000	2,000,000

各販売の労力

販売方法	労力
イベント	小
直売所	大
飲食店	小

それぞれのシーンに合わせた販売手法を模索し、結果を整理した。結果は皆で共有し、次年度の計画に反映した。

先進地視察 | 拓殖短大(深川市)

4HC視察研修 | H28.6
大学での事例調査



北海道落花生以外 | H28.9
道内他地域の情報収集



地域に波及



全道青年農業者会議にて、最優秀賞と評価される。
全国青年農業者会議へも参加

積極的に情報収集を行い、クラブ員で共有した。得られた知見や実証した結果を基に栽培マニュアルを作成した。その成果を地域への波及させることで地域全体の取り組みとなった。

(管内の直売所2カ所を核に地域農業者が栽培を開始)

4 今後の活動 *****

収量の向上と品質の安定。継続した消費者との交流と地域への情報発信。新たな販売方法の模索など地域の担い手の要望に対し、ともに考え、ともに検証しながら担い手が参画する地域作りを支援する。

オール宗谷で取り組む「宗谷新規就農支援ネットワーク」

～宗谷酪農の魅力PRと新規就農希望者の掘り起こし～

活動年次：平成26年～28年

宗谷農業改良普及センター本所

1 課題設定の背景 *****

対象：宗谷新規就農支援ネットワーク

離農が進む

H22:690戸→H26:630戸

新規参入者の就農状況

毎年1～3人就農

◎宗谷管内地域担い手推進
会議で検討、**新規参入希望
者の受け皿づくりが必要**

宗谷新規就農者支援ネットワークの設立

管内の各地域担い手育成センター、各JA、総合振興局で構成（事務局：普及センター）

ネットワークの目的

新規参入希望者の**情報の共有**と、新規参入者への支援体制等を**情報発信**し、**新規参入者を増やす**

2 活動の経過 *****

＜新規参入希望者の掘り起こし＞

宗谷総合振興局の担い手対策に係わる事業と連携

①農学系の大学に出向いて宗谷酪農の魅力を学生に情報発信する

「宗谷de就農フェア」と言う、企画を立て、準備・運営の支援を行った集合研修（フロアーミーティング）、個別相談（就農相談）を実施

②大学カリキュラムにある酪農実習を活用して宗谷酪農の魅力を経験する人達を増やす

事務局として、酪農学園大学に訪問し、宗谷での酪農実習の受け入れ農家、受け入れ体制をPRし、実習生の増加に務めた。



酪農学園でフロアーミーティング



若手酪農家の講演



大学での個別相談会

＜宗谷酪農の魅力に学生を発信＞

「宗谷de就農フェア」を多くの大学で開催できた

- 1 フロアーミーティング
 - ・宗谷酪農の紹介
 - ・若手酪農家による講演
 - ・パネルディスカッション
- 2 個別相談会
 - ・各市町村毎にブースで情報提供

- 平成27年度
- ・酪農学園大学（江別市）
- 平成28年度
- ・酪農学園大学
 - ・北海道立農業大学校（本別町）
 - ・帯広畜産大学（帯広市）
 - ・日本大学（神奈川県）

フロアーミーティングの様子



参加した学生から「宗谷に行ってみよう」「宗谷の放牧酪農に興味が出た」との声が

＜酪農実習で宗谷の魅力に体験＞

酪農学園大学との連携で多くの学生が宗谷で実習

学外農業実習において、委託実習先として宗谷へ学生に多く来て貰えた。

H27年：13名

H28年：20名

実習を通じ学生に宗谷酪農の魅力に体感してもらい、宗谷に新規参入を目指す学生を発掘する取組みが進んだ。



酪農学園大学の学外農業実習学生



学生と指導農業士との懇談会

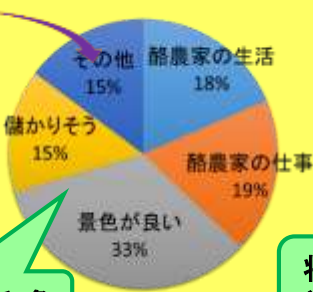
実習した学生は宗谷酪農に好評価、就農希望につながりそうな感触！

宗谷酪農の印象について



宗谷酪農に好印象

良いと感じた点について



どのような形で酪農をしたいか



将来酪農をしたい学生は53%

【学校と連携し、学生とのつながり強化】

宗谷に関心を持った学生と継続的なつながりを強くする。

【ネットワーク機能を活用し、受け皿づくり】

講演者（若手酪農家）のリストアップ、委託実習先（指導農業士等）の拡大を図る。

生産現場と消費者をつなぐ「食のつどい」10年の歩み

～ 学び・伝える・興すイベントから地域興しの活動支援へ～

活動年次：平成18～28年

釧路農業改良普及センター

1 課題設定の背景 *****

対象：標茶町

目的：食の安全・安心、健康

目的：生産現場と消費者の交流

主催：実行委員会

全町内会代表者

一般の応募者

食のつどい

目的：地産地消

目的：牛乳消費拡大

支援

普及

J A

町

平成18～28年

2 活動の経過 *****

Step 1

学ぶ取組への支援

Step 2

伝える取組への支援

Step 3

興す取組への支援

第1回（平成18年）～

第4回（平成21年）～

第8回（平成26年）～

平成18年6月3日

「安全・安心な食を考える」

- ◇ビデオ上映
「大丈夫？あなたの食卓」
「ここで見分ける食品表示」
- ◇試食交流、意見交換会
- ◇牛乳料理紹介、牛乳豆腐作り実演



平成19年4月27日

「地産地消を広げよう」

- ◇ビデオ上映
「安全・安心な食卓づくり」
- ◇試食交流、レシピ紹介

平成20年4月27日

「食と農の距離を縮めよう」

- ◇ビデオ上映
「トレサビリティって何？」
- ◇標茶の農業を知る〇×クイズ
- ◇試食交流、レシピ紹介



平成21年4月19日

「標茶の安心な食材を楽しもう」

- ◇ビデオ上映
「地域に根ざした食育へ」
- ◇試食交流、レシピ紹介
- ◇寸劇
「モモコ初めての出産」



平成22年4月25日

「標茶の大地が生む命のメッセージ」

- ◇ビデオ上映
「牛乳の話」
- ◇試食交流、レシピ紹介
- ◇意見交換「どこへ行く？標茶の牛乳」

平成24年4月21日

「食でつなぐ命のたすき」

- ◇講演
「食べる力は一手間かけた『おいしい』から」
- ◇試食交流、レシピ紹介

平成25年4月20日

「標茶の郷土色・食を知ろう！」

- ◇スライド上映
「標茶の農業・食の歴史」
- ◇試食交流、レシピ紹介
- ◇トークタイム 風牧場、ポロニ養鶏場、農産加工部会

平成26年4月19日

「標茶町のご当地グルメを考えよう」

- ◇講演「地元食材に愛を込めて」
- ◇試食交流、レシピ紹介
- ◇ご当地グルメ発掘タイム（テーブルトーク）

平成27年4月18日

「標茶町のご当地グルメを作ろう」

- ◇ご当地グルメプロジェクトの活動報告
- ◇試食交流、レシピ紹介
- ◇テーブルトーク



平成28年4月16日

「標茶町のご当地グルメができました」

- ◇スライド&DVD上映
「ご当地グルメ誕生ストーリー」
- ◇試食交流、レシピ紹介
- ◇テーブルトーク



Step
4

牛乳豆腐で「ご当地グルメができるまで」

～ご当地グルメプロジェクトへの支援

【運営体制】の変遷
実行委員会
→ご当地グルメプロジェクトへ

第1回 (H18～)
実行委員招集型

第4回 (H21～)
+一般参加型

第8回 (H26～)
+賛同型

ご当地グルメ
プロジェクト発足

H28～
自発的なご当
地グルメ
プロジェクト

〈視察研修〉

- ・ご当地ブランドフェスティバル
- ・牛乳豆腐販売事例（置戸町）

〈学習会〉

- ・商品化できるか（食品衛生法を学ぶ）
- ・牛乳豆腐のできあがりアレンジ可

〈試作会〉

- ・牛乳豆腐を総菜へアレンジ

〈試験販売〉

- ・牛乳豆腐の春巻き
- 〈試食&人気投票〉
- ・ミルクザンギ試食と味付け人気投票

支援体制



3 活動の成果 *****



ご当地グルメができました!!

「ご当地グルメ弁当」を考案



インフォメーションカフェ
「みるっくさん」オープン

4 今後の活動 *****

ご当地グルメを広げ、町に定着させるための自主的プロジェクト活動を支援する。

特産品づくりから、地域の戦略作物へ

～沼田町と共に歩む加工用トマトの振興～

活動年次：平成25年～28年

空知農業改良普及センター北空知支所

1 課題設定の背景

対象：沼田町トマト生産組合（21戸）



2 活動の経過

＜目標収量達成に向けた栽培技術の課題解決＞



＜産地の基盤を支える体制の確立＞

関係機関と連絡を密にして情報共有化を図り、技術資料等の刷新を行った。

<栽培技術の改善で株当たり収量の向上>

株あたり収量を向上するための
三つの技術改善を推進した結果

技術項目	支援前	支援後			
	(H24) 19戸	(H25) 19戸	(H26) 25戸	(H27) 26戸	(H28) 21戸
湿害回避のため畦を高く成型	0戸	1戸	9戸	13戸	16戸
分析結果に基づく改良資材の投入	0戸	10戸	16戸	18戸	18戸
規格早見表に基づいた収穫作業	0戸	0戸	全戸	全戸	全戸

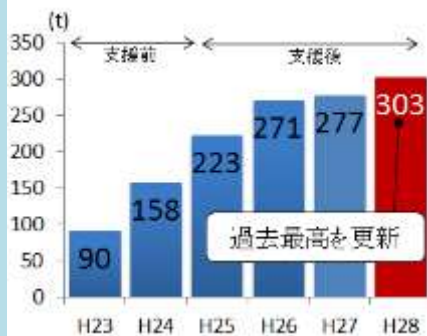
三つの技術に取り組む農家が増え、株当たり収量が向上!



一株当たりの出荷量の推移

<目標出荷量を達成!>

出荷量は目標(300t)を達成



10a出荷量の推移 (H23~28年)

	作付面積	畦の高さ	1株当たり収量	栽植本数
	(a)	(cm)	(kg/株)	(本/10a)
実践前	25	0	3.1	560
実践後	24	25	7.7	792

	粗収益	経費	所得	全作付の所得
	(円/10a当たり)			
実践前	86,771	65,081	21,690	54,226
実践後	266,766	150,444	116,322	279,173

10a当たり所得は、約5.3倍にアップ!

10aあたり所得の改善事例
(実践前:H25→実践後:H26)

戸数・面積・金額が増加



加工用トマトの作付戸数、
作付面積、出荷金額の推移

加工用トマトが
地域の戦略作物に
なって来たよ!



4 今後の活動 *****

【到達目標350tへ向けて】

収量・品質を着実にステップアップするため、対策技術を速やかに波及する。

【新たな技術導入検討】

機械栽培体系を関係機関と共に検討し、作付者・面積の拡大に取り組む。



半自動移植機



収穫機の検討